

令和4年度 法人 事業報告

令和4年度は、当法人の理念を根幹に、今出来る事は何か。という視点を持ち、感染症対策の予防・蔓延防止策を講じた上で必要な事業運営を行った

今後に向けて、事業運営を推し進めていく中で、内部体制の強化や部門間の協力体制が重要であることを再認識した。職員の代替がきかずにサービス自体の提供が困難・人材不足に拍車がかかり倒産を余儀なくされる法人が後を絶たない。災害や想定外の事態が起こった際に介護の提供が可能な状況を維持できることや、安定した運営を行える法人であることが国から求められている。次回（令和6年度）介護報酬改定ではマイナス改訂となる事が想定され、国の求める要件に対応する事が出来ない法人は淘汰される状況が目前にある。当法人の理念を根幹に、次期介護報酬改定を見据えて事業運営を行っていく。

【理念】

みつめあう目と目 つなぎあう手と手 ふれあう心と心 人と人との絆を大切に

【年間目標】

- ①感染症対策の徹底
- ②接遇意識向上
- ③地域とともに歩む施設づくり
- ④外国人人材の活用
- ⑤職員の働きがいのある職場づくり

【実践報告】

① 感染症対策の徹底

- ・新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクが高い高齢者に対する接触を伴うサービスであるという特徴を職員に周知徹底する。スタンダードプリコーションの実施・環境管理（適切な温度・湿度の調整）・勤務時間だけではなく家庭での過ごし方も含めた職員の健康管理の徹底等々の感染症対策を行いつつ、必要なサービス提供を行った
- ・国の感染症動向を注視し、施設内感染症対策マニュアルを随時見直し、職員一丸となって、対策に取り組んだ
- ・ノロウイルス感染事例 0件、インフルエンザ感染事例 2件
新型コロナウイルス感染事例多数
年度を通じて、クラスター発生事例3件（特養2件・ケアハウス1件）
今回の事例を踏まえて策定済みBCPの見直しを行った

② 接遇意識向上

- ・各部署、基本的な行動基準は概ね実施出来ている。業務多忙な時や夜勤等の精神的に負荷が生じる場面でご利用者への対応や声掛けに丁寧さが欠ける傾向にある。状況解決改善の為に虐待防止委員会が中心となって各部署での目標・行動計画を作成

した。年度末に評価を実施。取り組み以前と比べ、職員の意識改善を図る事が出来た

③ 地域とともに歩む施設づくり

- ・事業運営していく中で、地域におけるセーフティゾーンとしての役割は果たした。しかし、コロナ禍においての地域における公益的な取り組みに関しては、積極的に参画する事が出来なかった。ほっとかへんネット垂水（ヴェルデ名谷・本多聞地域福祉センター区域）・東垂水地域の夏祭りや文化祭も開催中止となった為、活動に参加する事が出来なかった。

現場での実習生の受入に関しては、感染症対策を十分に行った上で受入を行った。（デイ塩屋 3名・特養 5名・ケア 1名）

今後もコロナ感染症動向に注視しながら、地域貢献活動に取り組んで行く。

④ 外国人介護人材の活用

今年度のリタイヤ者は1名であった。（令和3年度事業、グループホームにて受け入れを行っていた者。子供を母国の養親に預け、単身赴任で就労していた。父親の容体が悪化。子どもの預け先が無くなる等々の理由が原因でリタイヤとなる）

年度末時点での外国人スタッフ受入状況。特養 3名・デイ 1名・GH 1名・ケア 3名。次年度以降も、雇用情勢等勘案しながら必要に応じて採用していく。令和5年度は新たに1名特養にて受入予定（集合研修後、12月より就労開始）

⑤ 職員の働きがいのある職場づくり

- ・育児・介護休業法を改正。柔軟な育児休業を取得出来るよう整備を行った。
- ・Wi-Fiネットワークの構築・介護機器のICT化を進め、職員の負担軽減を図った。

【苦情件数】

苦情件数：0件